



フリーアナウンサー
財前 真由美



大分市議会議長
野尻 哲雄



大分市長
佐藤 樹一郎



全日本空輸(株)代表取締役社長
平子 裕志

新春企画

OITA PRIDE! 鮮やかな魅力がいっぱい ANA平子裕志社長と語る



市では、地域への誇りや愛着を醸成することを目的に、市報や広報番組、SNSなどを活用し、広報企画「OITA PRIDE! プロジェクト」を展開しています。今回は、大分市出身の平子裕志氏（全日本空輸株式会社 代表取締役社長）をゲストにお迎えし、故郷大分への思いや未来に向けた本市の魅力づくりなどについて語っていただきました。

コーディネーター 財前真由美（フリーアナウンサー）

財前 平子社長は、大分上野丘高校、東京大学経済学部をご卒業後、1981年、ANAへ入社されました。高校を卒業するまで大分市で過ごされたわけですが、大分市での思い出をお聞かせください。

平子 私は4歳から小学5年生まで旧大分空港（現在の大洲総合運動公園）に近い大空団地に住んでいました。空港が目前にありましたので、フェンス越しに飛行機の離発着を見ることが日課になっていました。これがまさに私の原風景です。小学2年生のときに別府湾の遊覧飛行で、当時デビューしたばかりのYS-11に乗る機会があった、いつも見上げていた高崎山が眼下に見えた時の感動が忘れられず、飛行機への思いをさらに強くしました。小学校の卒業文集に将来やりたい職業を書く欄があるのですが、そこには「パイロット」と書いています。

市長 私は平子さんと同じ年ですが、平子さんは中学校が王子中で、高校が大分上野丘、私は植田中で、大分雄城台と別々です。実は高校生の時、仲の良かった王子中出身の友人から、平子さんの名前をよく聞いていました。すごく勉強ができるって（笑）。高校卒業後は、同じ大学に入学したことで、就職してからも定期的に会うようになりました。その後も、私が日本貿易振興機構ニューヨーク事務所長時に、平子さんがANAニューヨーク支店長として赴任し、同じ時期をアメリカで過ごしました。大分、東京、アメリカとずっとつながっていて、平子さんとは何か縁のようなものを感じています。

議長 同級生同士の話に割り込んで申し訳ないけれど（笑）、先日、東京からの帰りに、ANAの機内誌「翼の王国」で平子社長のコラムを読ませていただきました。その中で、平子社長がシカゴに出張した時に食べたフォーチュンクッキーから「Now is the best time for you to be spontaneous. Serendipity!」（今こそ自由に振る舞いなさい。セレンディピティ!）というメッセージが出てきた話があったのですが、「セレンディピティ」って非常にいい言葉ですね。思いがけない幸運との出会いという意味だったかな。機内誌では、以前も高崎山自然動物園を紹介していただいて、とても感謝しています。